わたしは以前から、わが地域ではやっていない大規模農業経営を実際に肌で感じ、今後の農業経営に生かせないかと思い、鶴田町みどりの会海外研修に参加しました。

畜産酪農の盛んなイメージのニュージーランドですが、南半球という北半球とは季節が逆の条件を生かし、野菜、果物など多種多様な作物を、世界各国に輸出しています。

ニュージーランドに降り立った最初の印象は、見たことのない広大な大地が広がっていて、酪農や農地の規模が明らかに日本とはケタが違うと感じました。よく園地を見てみると、土が乾き、草が枯れて、雨が降っていない様子がうかがえました。しかし、拝見した園地では、すべて水を撒くシステムを完備しておりました。栽培している作物に水を与えている程度で、周りの雑草までは成長できません。それが病気になりにくい環境ができているのだと思います。よって農薬を散布する必要もなく、除草剤もいらず、結果、経費があまり掛からないのだと思います。

また化学肥料やホルモン剤はあまり使ってほしくない国民性で、どこの園地でも有機栽培、低農薬栽培、また天敵虫を用いた生物学的防除を使った栽培方法を可能にしていた。よって健康な食品であれば、多少の傷や形の悪いものは気にせず、日本では店頭に並ばない商品まで購入を視野に入ている。本当に日本人との違いに驚かされた。

そして果物では、たまにしか摘果をしていませんでした。日本では実を大きくするためや糖度を上げるために何度もすることもありますが、ニュージーランド人は果実の大きさや味へのこだわりは、それほどなさそうでした。そこも日本とは、また違う点でした。

日本の農業は、病害虫と常に戦い、台風などの災害と戦い、うまいものを作る技術は世界一だと思います。しかし、経費と生産量から考えた場合、うまいが販売単価がどうしても他国に比べ高くなってしまいます。価格が高くても日本の農産物を食べたいと思う圧倒的なうまさと、安全面での信頼が持てれば、いつの時代も富裕層をターゲットに生きていけると思います。

今回の研修で生活して感じたことがあります。ニュージーランドで見る大半の車は日本で乗らなくなった中古車を乗っていて、ブランドのバックや時計を身に付けている人も、あまり見ることがなかったです。しかし船は、一家に一隻ある家が７割もあり、趣味には徹底してお金を掛けて遊ぶことが分かった。自分の時間を大事にし、遊ぶために働くといったような、生きていくことの喜びを日本人よりも噛みしめている気がしました。そこは自分も見習っていきたいと思います。

最後に、今回の研修において鶴田町みどりの会の皆さんをはじめ、鶴田町の皆さんやサポートしてくれた方々、現地案内をしてくれた皆さんに深くお礼申し上げます。

わたしはニュージーランドで学んだことを糧として、色々なことに挑戦していき、日本の農業を盛り上げていけるよう頑張りたいと思います。誠にありがとうございました。